

遅くなりました・・・

もう言い訳できない状況ですが、またしても大変遅くなりました。

2002年3月2日、「全国合鴨米流通協議会総務会並びに杉浦夫妻と澤田夫妻の結婚を祝う会」が熊本県七城町で開かれました。大切な会議の報告をやっとお伝えいたします。会員の皆様にはご迷惑をおかけ致しました。

### 全国合鴨米流通協議会総務会のご報告(2002.3.2)

出席者:上田夫妻(熊本県)、原夫妻(熊本県)、中村さん(長崎県)、岩下さん(熊本県)、筋田さん(福岡県)、澤田さんご家族(鹿児島県)、島川さん(熊本県)、杉浦夫妻(熊本県)

#### 1. 情報交換並びにレポート発表

##### ●グリーンコープへの米産直の現状と鹿児島独自の対応について(橋口さん)

(橋口さんは、会議当日、『川上小学校の合鴨を食べる会』への出席のため欠席。上田さんが資料を代読された。)**【別紙資料参照(HP版の為省略)】**

##### ●ホームページ(HP)の作成経過と作成方法について(筋田さん)

お米のお客さんからHPの要望があり、一昨年、「ケロケロ通信」をインターネット上で閲覧できるようにした。また、HPを通して、①販売のきっかけ、②教育効果(こちら(筋田さん自身)の考え方を知ってもらいたい)をねらった。

昨年の秋から息子さんに相談したところ、「トップページを作ったら、半分できたもんだ」と言われ、まずそこから制作。そして、次々に別ページを作り、リンクを貼り付けた。

HPの作成には、「ホームページビルダー」を使用。HPを保存登録しておくプロバイダーには、無料でやってくれるところもある。「合鴨米」などのキーワードの登録も必要(キーワードをサーチエンジン(Yahoo や Google に登録しておく、検索に引っかかりやす

くなり、それだけ、HPを見る機会が増える)。

ポイントは、何度もHPを閲覧してくれるような工夫が必要(検索に引っかかるようなやり方が必要)らしい。

筋田さんのHPアドレス: <http://isweb37.infoseek.co.jp/area/inaka2/>

### ●NPO法人地域循環研究所の活動報告について(中村さん)

・2000年 法人格取得

・学校給食の自給率調査

一昨年から、食糧庁から予算をもらって、学校給食の地場産自給率の調査を始めている。全国の100の自治体にアンケート。50~60くらいの自治体から回答があった。回答は自給率の高いところからのものが殆どであった。市町村の経済課を通して、栄養士にやらせようとしたら、回答を嫌がった(はじめから数字が低いと分かっているから...)。しかし、地場産のものがほしいか?と尋ねると欲しいという回答が返ってくるらしい。

・有機物循環事業

ファミレスの生ゴミをメタンガスプラント入れ、液肥にする試みを昨年からは始めている。穂肥として利用するなら、肥切れがよく、窒素分が残らないため、食味も落ちない。液肥は、地域通貨として、子供の絵が描かれた野菜交換券(1,000円)と引き替えに。産直までやらないと、農地がゴミ捨て場になってしまう。また、循環にならない。百姓が堆肥を買って、野菜売れない、では単なる自腹ボランティアで終わってしまう。

大木町では、昨年2月に策定した新エネルギービジョンで、家庭の生ゴミと豚舎の糞尿などをメタン発酵させ、ガスエネルギーと液肥を作る有機循環事業に取り組むと発表。昨年12月には、資源循環のまちづくりをテーマにしたシンポジウムを開催した。

地域循環研究所のHPアドレス: <http://www.junkan.org/>

### ●狂牛病発生、雪印偽装事件による生産現場の実情報告(岩下さん)

現在、肥育農家は元牛代として牛を40万で買って、経費に30万かかり、売りに出すときに30万で売ればいい方だという。売っても、売らなくても赤字という状況。今の赤字を何年後に返せるか分からない。

政府も役人も悪いが、農家が一番悪い。産直して、地元で食べる工夫をしてくれなかった。(狂牛病の)情報が入っていたのに動かなかった。自分たちも、政府に訴えるべきやった。

最近の生産地の偽装問題は、逆に言えば、産直やっている人に追い風になる。

## ●阿蘇町での状況報告(島川さん)

あそ有機農園のメンバーの約半分が有機認証を受けている。依頼した認証団体は熊本県有機農業研究会とオーガニック認証協会。認証を受ける面積が小さいと、認証料が割高になるが、オーガニック認証協会ではグループ審査が受けられた。ただ、オーガニック認証協会では、緩衝帯が4mあり、左右8mが認証から外れる場合もあった。県有研は1mだった。

残りのメンバーも認証を受ける予定。しかし、書類申請が煩雑。資材を一つ変えただけでも、資材証明書を再提出しなければならない。

畜産の有機認証も動き始めている。阿蘇の波野村の放牧牛について、オーガニック認証協会に対して有機認証の申請を検討している。

## ★息子夫婦の自己紹介と今後の抱負について(澤田さん)

澤田たみ子さんが若夫婦、泰之(やすゆき)さんと紘子(ひろこ)さんを紹介。2人は今年2月16日に結婚したばかり。お父さんと喋り方がソックリな泰之さん。対照的に、紘子さんはハキハキした感じの方。たみ子さん曰く、(息子が農業を手伝うようになってから)5年後に、この若夫婦に経営を譲りたい。それまで自分は頑張って、その間に若夫婦にはあれこれ覚えてもらえたら、とのこと。

たみ子さんが悠々自適に暮らすようになるまで、あと3年らしい。

## ■その他

白豚肉にウソの「黒」シールを張り出荷した食肉卸スターゼンの話、狂牛病の影響で有機肥料として骨粉が使えなくなった話、牛の肥育の実状(3歳目から能力を発揮する牛に、高カロリー・高タンパクの餌を与えると、5歳目にして老廃牛となる。生の草を食べさせるな、というのが牛農家の常識だとか・・・)、米ぬか農法や岩塩の利用法について、などの話が次々に出された。

## 2. 流通協議会の再活性化をめざして

### ①流通協議会会計報告並びに米袋発送状況報告

2000年度10月～12月、2001年度1月～12月の会計報告は別紙の通りです(HP版のため省略)。

2000年度は、澤田英幸さんの急逝による会計事務担当者の交代がありました。新しい担当者に原誠一さん・文代さんがなられ、会計事務もそこから再スタートとなりました。

### ②米産直の現状打開策について(新戦略の構築)

### ③「合鴨米」商標の無断使用者への対応について

【別紙の流通協議会再活性化私案を参照して下さい。(HP版の為省略)】

### ④パソコン産直ソフトの制作について

産直業務ソフトをNPO法人で共有する方法で検討。

ソフトの制作は専門家に依頼する(費用は約50～60万程度)。

お米の産直だけではなく、野菜の産直も視野に入れたい。

なお、産直ソフトの詳細な初期設定については、今後相談する。

### ⑤「合鴨君からのメッセージ」の編集計画

しばらくネタに困らないはず！(やる気があれば、定期的に発行できるはず・・・)

### ⑥全国合鴨水稻会の状況報告と今後の対応について

全国合鴨水稻会世話人会に出席してきた小田さん(山口県)から、今後の対応について次のような提案が出されました。

・全国合鴨フォーラムには流通協議会として出席して、合鴨稲作の仲間に顔を見せることが必要と思います。

・合鴨通信に流通協議会として寄稿して、流通協議会の態度・方針を明らかにし、登録商標の使用権利、そして将来展望として合鴨水稻会の中に流通部門を設置して会員の要求に応えるなどの提起をすべきではないかと思っています。

・合鴨米流通協議会の運営としても改革・刷新をする必要があると思います。定期的に機関会議(総会など)をして会員の要求を汲み取り、それに基づいた運営方針を明確にし、役員も全国組織に見合う体制にする必要があるでしょう。

上記の小田さんの提案に対し、今後も合鴨通信への寄稿やフォーラムへの参加を通して、流通協議会の活動を伝えていく方針を確認した。また、全国合鴨水稻会との関係についての担当者を、橋口さん(鹿児島県)にお願いすることを決めた。

## ★杉浦夫妻と澤田夫妻の結婚を祝う会

総務会の後、懇親会をかねて澤田夫妻と杉浦夫妻の結婚を祝う会が開かれました。2組にはお祝いに、発芽玄米機が贈られました(ありがとうございました！)。澤田紘子さんと杉浦智美さんがそれぞれ挨拶をしました(旦那は挨拶をしませんでした)。とにかく、楽しいひとときでした。澤田泰之さんの食べっぷりはお父さんソックリでした・・・。

## 編集後記

まずはお詫びから。ここ1,2年、通信の発行が滞ってしまって、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけ致しました。次回通信は、秋には出したいと思います。産直米価格のアンケートの集計結果、NPO 法人取得状況、そしてホームページ立ち上げのお知らせをできるだけ早目にいたしたいと思います。

それと、結婚のお祝い本当ありがとうございました(うれし涙)。これを機に、通信も日本産直米生産者協会の活動も活発にやれたら、と思っています(でも一步一步かな)。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

全国合鴨米流通協議会「合鴨君からのメッセージ」第31号 2002年7月25日発行

(HP版 2003年3月3日改訂)

(年会費・米袋注文:郵便振込(番号 02090-9-22983,(加入者名)全国合鴨米流通協議会)

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*